

多様な避難手段による避難訓練

住民避難訓練は11/19に実施(船舶のみ8/9、10/19)

船舶避難訓練概要

日時:平成29年8月9日(水)7:00~11:00

10月19日(木)7:00~10:00

場所:境港、鳥取港 等

参加機関等:鳥取県、海上自衛隊、海上保安庁、米子市、境港市、境港管理組合 等

【避難退域時検査会場】
イオンモール日吉津

<訓練の流れ>

○本部等運営、広報・伝達、緊急時モニタリング

- ・災对本部会議、島根県知事等とのTV会議、広報・情報伝達等
- ・モニタリング本部の設置、情報伝送等



○住民避難

- ・多様な避難手段(バス、JR、船舶、航空機)の活用
- 【JR】補完的な住民輸送(後藤駅で下車し、日吉津村まではバスで輸送)
- 【船舶(境港→鳥取港)]住民の緊急避難等
- 【航空機(美保基地・米子駐屯地→避難退域時検査会場等)

○避難行動要支援者避難

- ・多様な避難手段(バス、JR、船舶、航空機)の活用
- 【航空機(米子駐屯地→避難退域時検査会場等)]
- 【航空機(美保基地→鳥取空港)]



○緊急被ばく医療活動

- ・初期・二次被ばく医療活動、避難退域時検査、安定ヨウ素剤配布等 等

弓ヶ浜半島の特性

- ・道路が南北にしかなく避難の際には同方向に避難が集中する。
- ・半島付け根部分に人口が密集しており、人口密集地を通過し避難する
- ・島根県から避難住民が合流することから、万が一の場合大渋滞が予想される。



避難退域時検査訓練(イオンモール日吉津)



緊急避難訓練(陸上自衛隊、ドローン)



避難行動要支援者避難訓練(入院患者)



避難行動要支援者避難訓練(高齢者)



原子力防災講座(10/21、27、31)



新型テント（ドラッシュ型テント）の導入

1 運用開始

平成29年11月17日(金)

2 導入目的

悪天候時でも安全かつ確実に災害活動支援や避難退域時検査、除染作業等の防災対策が実施できるよう、病院感染対策の国際標準に基づく気密性と断熱性を有して、放射線防護対策にも優れた全天候型の大型ドラッシュ型テントを整備した。

※アメリカで開発された国際規格テントであり、世界の赤十字などでも使われている。

※空調機能も備えており、防疫対策にも使用可能



展張時の面積 約33㎡
幅約4.6m、長さ約9.6m、
高さ約3.2m



3 整備概要

(1)整備数 2張り

(2)ドラッシュテントの特徴

- ▶フレーム一体式急速展張シェルターテントであり、スピーディーな展張・撤収機能が可能。
(開梱から展張まで、6人で約15分)
- ▶耐久性に優れたフレーム素材(カーボン+チタン+ガラス繊維)で傷に強い。
- ▶内幕と外幕の2重幕構造で気密性と断熱性を確保される。

(3)大型空調機等

- ▶テント内の要員保護のため、大型空調機や陰圧・陽圧空気清浄器、LEDライト、発電機等も整備。
- ▶陰陽圧送風機のHEPAフィルターは、放射性物質等を含んだ塵(0.3マイクロメートルの微粒子)を99.97%以上集塵可能(放射性ヨウ素対応の活性炭フィルターはなし)。